

## 「佐賀果試34号の品種特性と早期樹冠拡大のための育成管理」

佐賀県果樹試験場 品種開発研究担当 中村 典義

果形のユニーク性、高糖度そして食味の良さなどから消費者に人気が高い「不知火」は、本県においても各産地に導入されてから急速に栽培面積が増え、現在中晩生カンキツの主力になってきています。しかし、「不知火」は樹勢が低下しやすく、そのため減酸不良などの問題が産地を悩ませてきました。このような中で佐賀県果樹試験場では、「不知火」よりも樹勢が強く減酸が早い新品種「佐賀果試34号」を開発し、平成18年7月に品種登録を行いました。この品種を用いることにより「不知火」より一ヶ月ほど早くからの収穫が可能になると思われます。

平成18年3月には約一万本が試験配布され、今年の3月から本格的な配布が始まりました。そこで、今回は「佐賀果試34号」の品種特性や早期樹冠拡大のため育成管理について述べていきたいと思います。

### ・「佐賀果試34号」の品種特性

佐賀果試34号は「不知火」の珠心胚実生の中から、樹勢が強くて減酸が早い個体を選抜して育成した品種です。特性としては次のようなものがあります。

- ・不知火と比べて樹勢が強い。
- ・不知火と比べて減酸が早い（育成地の露地栽培で1月中旬頃）。  
\* 熟期は栽培地、栽培条件で前後します。
- ・トゲは若干発生し、特に幼木期は長いトゲが発生する。しかし、結実を開始するとともに少なくなってくる。

また、栽培上の注意点としては次のようなものがあります。

- ・結実初期には着花が極端に少ない樹もあり、着花量にバラツキがみられる。
- ・樹勢を維持して減酸を安定させるためには、苗木による育成が必要です。
- ・新梢の発芽数が多く、弱い枝が発生しやすい。

これらの点に気をつければ、基本的には「不知火」と同様な栽培方法で大丈夫だと思われま

す。

### ・早期樹冠拡大のための育成管理

#### 1. 定植

植え付けのよし悪しは、そのまま苗木の生育に反映されますので、適地を選び、なるべく大きく植え穴をほり、しっかりとした土作りを行うことが重要です。

また、苗木はできる限り早く定植することが原則です。植え付けまでに時間が空くようであれば、冷暗所に保管し、根に湿り気を与えて絶対に乾燥させないようにすることが大事です。育苗後に苗木を掘り取る場合には、細根を多くつけて根を痛めないように土を落とさないことがポイントです。

#### 1) 適地

佐賀果試34号は不知火と同じように、日当たりが良く寒気が溜まりにくい、排水が良い、耕土が深く腐食が多い、夏場乾燥しにくい、強風が吹かない、といった土地が適しています。やむを得ずに適地に植えられない場合には、冬季のこもがけ・袋がけ等防寒対策、排水溝や暗きよによる排水対策、有機物による土壌改良、かん水・敷きワラ、防風ネット等の対策が必要になってきます。

## 2) 植え付け

定植の時期は発芽前の3月上中旬が適しています。植え穴は直径1m、深さ60cm程度に掘り、底部に剪定くずやワラなどの粗大有機物を30cmほど敷き、その上に完熟堆肥20kg、熔リン1kgそして苦土石灰2kgを土と混ぜて入れます(第1図)。植え付けの高さは、有機物が分解されて沈下したときに深植えにならないように高めにします。もし改植園であれば、前作の残根は良く取り除いてください。

植え付ける際には、傷ついた根を取り除いたのちに、根を良く広げて丁寧に土を入れます。植え付け後は十分にかん水し、しっかりと根と土を密着させ、露出している根には覆土をします。その後、乾燥防止と雑草抑制のために敷きワラや黒マルチなどで被覆します。

## 2. 苗木の育成管理

苗木は環境の影響を受けやすいため、管理法が樹の生育に大きく作用していきます。そのため、つぎのような細やかな育成管理を行うことが早期の樹冠拡大の鍵になってきます。

### 1) かん水

早期の樹冠拡大のためには、水管理がもっとも重要なポイントになってきます。苗木の細根は乾燥させると、その後の発根力が弱くなり生育に大きく影響してきますので、土の乾き具合をみながら最低でも10~15日おきに、こまめに灌水を行います。特に夏の乾燥期には注意が必要です。

### 2) 施肥

新梢の伸長を促進するには少量のこまめな施肥が効果的です。根が弱っている状態では肥料やけを起こす場合がありますので活着を確認した後に、肥料を第1表の施肥基準に基づいて3~9月まで毎月少量(10%)ずつ施肥し、10月に秋肥(30%)を施肥すると効果的です。

また、「不知火」同様に新梢の芽枯れ症状防止と新梢の緑化を促進するため、発芽前~伸長期にかけて、窒素成分主体に水溶性カルシウム剤(セルバインやスイカル等)の100~200倍液といったカルシウム剤を加えた葉面散布剤を数回散布します。

## 3. 枝梢管理

佐賀果試34号の特性として、親品種の「不知火」と同じように新梢の発芽数が多く、弱い枝が発生しやすい傾向にあります。そのため適切な枝梢管理を行わないと短い貧弱な枝ばかりになり、樹冠拡大が遅くなることが心配されます。そこで早期の樹冠拡大のためには、次にのべる基本的な枝梢管理をきちんと行っていくことが重要になってきます。

### 1) 整枝・せん定

樹形は不知火と同じように開心自然形に仕立てていきますが、いくつかのポイントを説明します。

配布された苗木は1年生苗木が多いと思います。その苗が接木部から30cm程度で切返しされていればそのまま定植してください。もし、長いままであれば、接木部から25~30cm付近の春枝と夏枝の間の輪状芽より下かあるいは夏枝の強い芽で切返して定植してください(第2図)。

春枝は上部の強い芽を5~6本残して芽かきし、支柱で誘引して伸長・充実させます(第3図)。基本的に芽かきを行う場合は、同じ場所から発芽する芽は1つだけ残して除去します。特に佐賀果試34号は発芽数が多いので、こまめに芽かきを行う必要があります。主枝については、2~5年かけて充実している強い枝から選びながら、最終的に3本程度の主枝に仕立てていくようにします。

## 2) 新梢の切返しせん定による早期樹冠拡大

春枝の伸長が止まって硬化した後に、強い枝を伸ばすために枝の充実したところで切り返しておきます。その後、発芽してきた夏枝は強い芽を2~3本残して芽かきし、同様に伸長・硬化後に切返します。もし、弱い夏枝しか発生しなかった枝については充実している春枝まで戻って切返します。また、秋枝が発生した場合には夏枝まで戻って切返します。このように、佐賀果試34号は弱い枝になりがちなため、新梢の切返しを行っていくことにより強い枝を発生させ、樹冠拡大を促進させていく必要があります(第4図)。

## 4. 病害虫防除

新梢を加害する害虫であるアブラムシ類、ミカンハモグリガそしてアゲハチョウ等の春芽伸長期や夏芽伸長期における防除を徹底することが樹冠拡大のポイントです。これら害虫を同時防除する場合にはモスピラン水和剤(2000倍)を散布します。さらに3年生程度の幼木におけるミカンハモグリガの防除には、アクタラ粒剤などの粒剤を利用すると便利です。ただ、粒剤利用した場合には着果はさせないでください。また、ハマキムシがみられた場合には、エスマルクDF(2000倍)などのBT剤やオリオン水和剤40(1000倍)などを散布してください。

一方、「不知火」と同じように、かいよう病防除を中心とした防除も必要です。発芽前(3月中旬頃)にICボルドー66Dの60倍かクレフノン(200倍)加用のコサイドDF(2000倍)を散布します。続いてクレフノン加用のコサイドDFを5月上旬中旬に、また6月上旬から7月上旬の梅雨期には、降雨量が200~300mmごとに散布します。

その他の病害虫防除に関しては、「不知火」の防除暦を参考にしてください。

## 5. 雑草防除

幼木の時期は養分競合や日照を遮られるなど、雑草の害を受けやすく初期生育を大きく左右しますので適宜除草を行います。また幼木園における除草剤の利用は、樹に影響を及ぼすことがありますので、使用を控えて抑草マルチ等で雑草を抑えてください。

## 6. その他

苗木は強風で揺すられたり倒れたりすると根が傷み生育不良の原因になりますので、支柱を立てて固定します。また、風除けと保温を兼ねたアンドン栽培も有効です。さらに、温州ミカンに比べて佐賀果試34号の新梢は硬化するまでは基部から折れやすいと思われるので強風時には支柱で誘引する等の注意が必要です。

また、次の年に花芽が着きそうな弱い枝が見られる場合には切返しておくとともに、11月中旬~12月下旬にジベレリン25~50ppm水溶液を散布して花芽を抑制することも検討してください。それでも花芽がついた場合には早めに芽かきして新梢の発生を促します。

### . 大苗育苗について

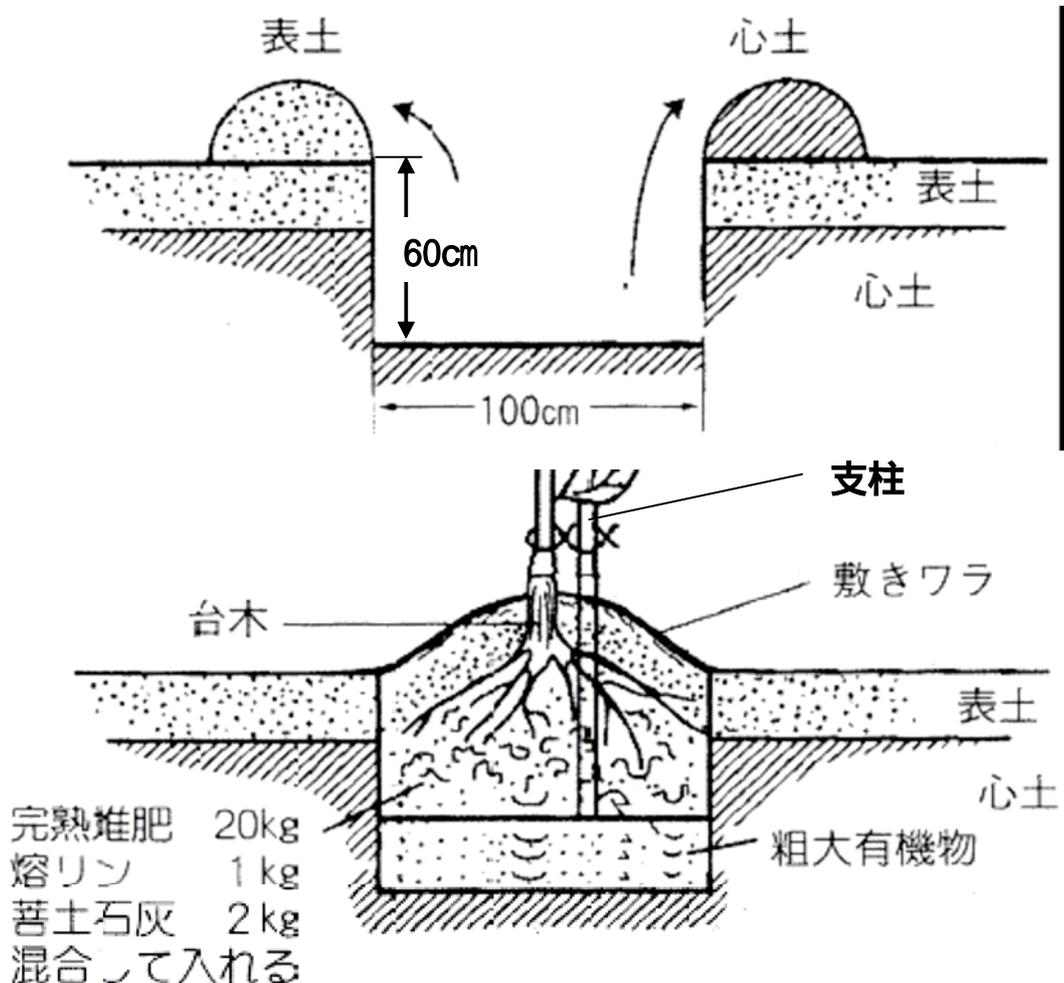
来年の春に苗木を入手される方は大苗育苗もぜひ検討してください。早期に樹冠拡大を行って成園化をはかるためには、仮植えをして大苗を育成することが効果的です。

大苗育苗にあたっては、水田等の水管理が出来る土地を利用して、第5図を参考に、植え付け前年に完熟堆肥(10kg/m<sup>2</sup>)と苦土石灰を混入した育苗床をつくり、3月上旬中旬に植え付けし、集中管理をして大苗を2年間育苗します。育苗期間は特に整枝は行わずに主幹の充実と細根の増大をはかります。育成管理は上記の幼木の育成管理と同様に行ってください。

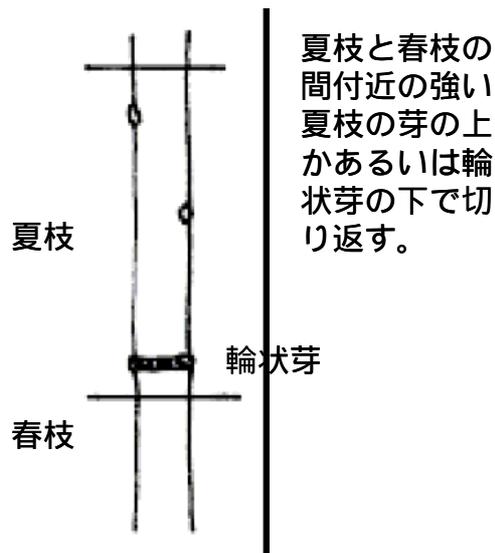
第1表 苗木・幼木の施肥基準(g/樹)

肥料成分	1年目	3年目	5年目	7年目
チッソ	90	150	180	210
リンサン	54	90	108	126
カリウム	54	90	108	126
みかん美人2号	900	1500	1800	2100

\* 植栽本数などの関係で成木園の施肥量を超える場合は成木園の施肥体系とする



第1図 植え付け方法

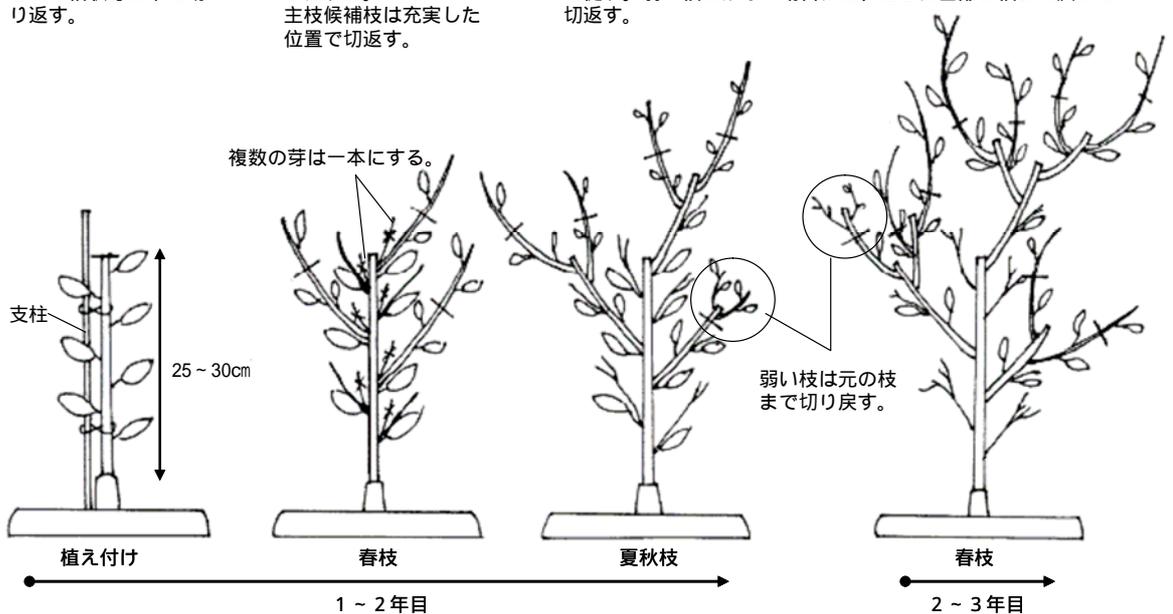


第2図 苗木の切り戻し位置

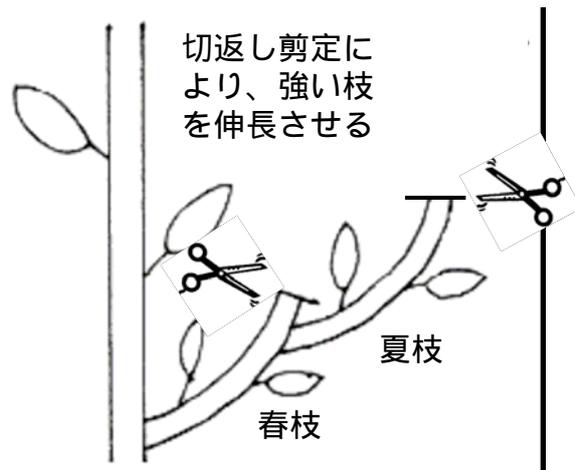
夏枝と春枝の間付近の強い夏枝の芽の上かあるいは輪状芽の下で切り返す。

5～6本の芽を残し、一ヶ所から出る芽は1つにする。主枝候補枝は充実した位置で切り返す。

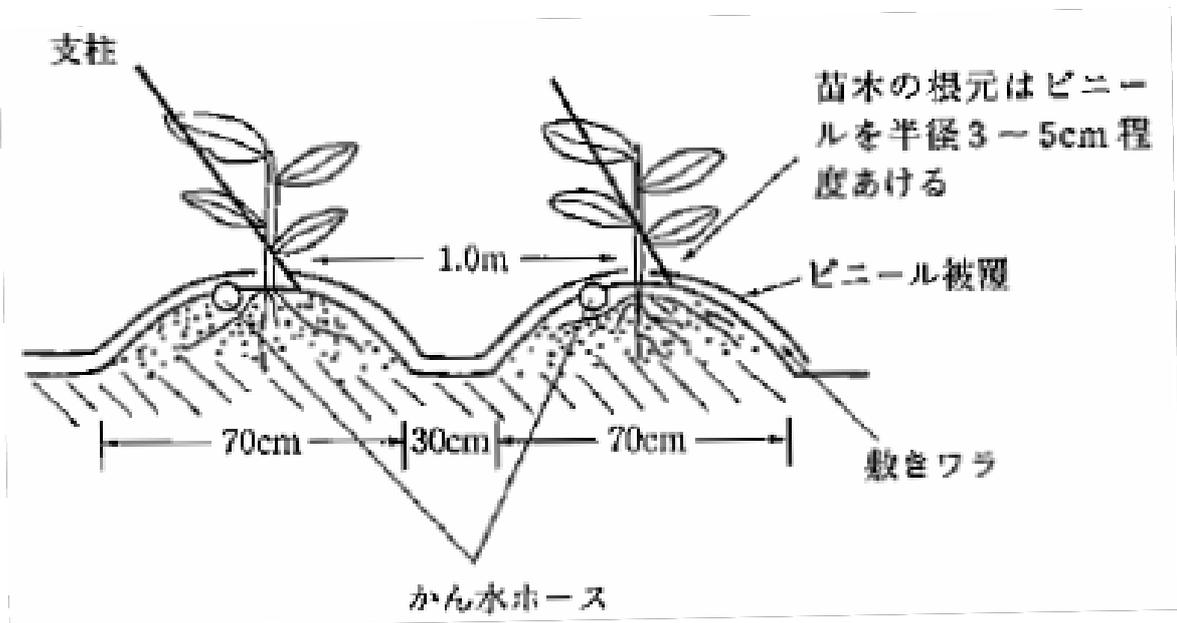
2～3本の強い芽を残し、一ヶ所から出る芽は1つにする。強い枝を主枝候補枝に選びながら充実した位置で切返して伸長を促す。弱い枝しかない場合には、さらに基部の枝まで戻って切り返す。



第3図 幼木の樹冠拡大のための新梢管理



第4図 切返し剪定による樹冠拡大



第5図 高畝栽培による露地の大苗育苗(2年間育苗)  
(「デコポンをつくりこなす」農文協より抜粋)